

西宮市公共施設等総合管理計画 概要版

1. 公共施設等総合管理計画とは (本編 P.1~)

○目的

全ての公共施設等の状況を把握したうえで、老朽化対策等の基本的な考え方を示し、「**全体最適の実現**」を目指すために策定するものです。

○対象施設

本市が所有・賃借(リース等含む)する全ての建築系及びインフラ系公共施設を対象としています。

○計画期間

「公共施設マネジメントのための基本的な方針」と同期間の平成 74 年度までとしますが、計画策定時の状況から大きな変化があった場合には、必要に応じて計画を見直します。

2. 公共施設等の現況及び将来の見通し(本編 P.4~)

①公共施設の老朽化が進んでいます

- ・全市で 677 施設、約 161 万㎡の建築系公共施設(いわゆるハコモノ)を保有
- ・学校・市営住宅で全体の約 73%
- ・建築後 30 年以上の施設が約 50%
- ・インフラ施設(橋りょう、上下水道管等)も老朽化

②人口が減少し、少子高齢化が進みます

- ・平成 32 年をピークに減少
- ・平成 72 年には、40.6 万人と予測
- ・少子高齢化に伴い、生産年齢人口も減少

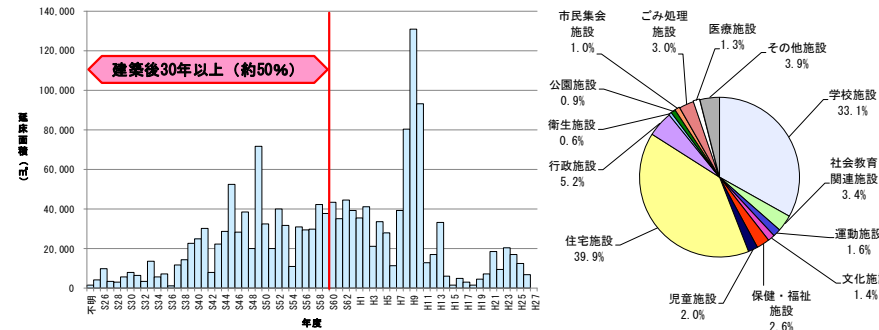
③市税収入は増えず、社会保障関係費は増大します

- ・生産年齢人口が減少し、今後市税の増収は期待できない
- ・高齢化に伴い社会保障関係費が増大

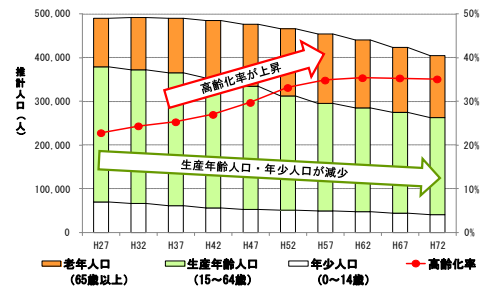
④施設の更新・改修費用は多額になります

- ・更新・改修費用は今後 50 年間で約 1 兆 2,700 億円(試算)で、単純平均で年間約 254 億円
- ・これは、平成 18~27 年度の投資的経費等(更新等にかかった費用)の平均額約 194 億円と比べて、約 60 億円の開きがある
- ※更新等費用は、一般財団法人地域総合整備財団の試算ソフトによる

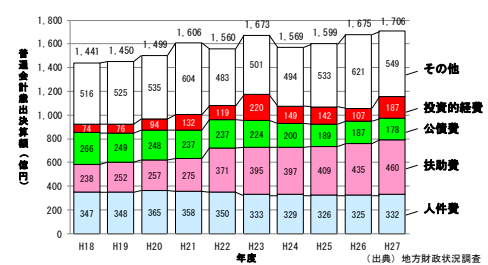
●建築系公共施設 建築年度別延床面積及び構成比(平成 27 年 3 月 31 日時点)



●西宮市将来人口推計



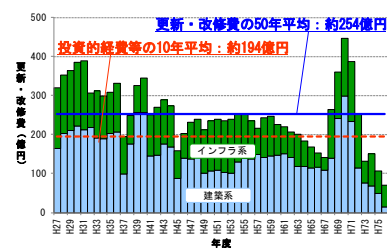
●普通会計歳出決算額の推移



●インフラ系公共施設 保有量一覧(平成 27 年 3 月 31 日時点)

| インフラ系公共施設分類 | 対象施設 |
|-------------|-----------------------------------|
| 道路施設 | 一般道路 954km、自転車歩行者道 12km、道路付風物 |
| 橋りょう施設 | 橋りょう 647橋 |
| 水路施設 | 指定水路 247km、溜池 5箇所、調整池 29箇所 等 |
| 公園施設 | 都市公園 481箇所、遊具・健康器具、植栽 |
| 上水道施設 | 管路 1,181km、浄水場 3箇所、配水所、配水池 等 |
| 工業用水道施設 | 管路 74km、浄水場 1箇所、取水場 等 |
| 下水道施設 | 管路 1,177km、浄化センター 3箇所、ポンプ場 15箇所 等 |

●更新・改修費用の推計(公共施設等全体)



3. 公共施設等を取り巻く課題と方向性(本編 P.18)

《課題》

今後、老朽化した公共施設等の更新や維持管理に多額の費用がかかりますが、それらに使える財源に余裕がなくなることが予測されます。

《方向性》

今後、公共施設等の更新・改修を行う際には、その必要性を十分検討し、経費を抑制していくとともに、戦略的な保全計画を立てて、単年度に発生する費用の平準化を図る必要があります。

公共施設等の維持更新にかかる費用の抑制、無駄の排除

《課題》

建築後 30 年以上経過した公共施設が多いため、適切な修繕や改修を行っていかねば、予期せぬ不具合が発生する可能性が高まり、更新・改修サイクルの短縮を招くだけでなく、市民サービスの質の低下につながる懸念があります。

《方向性》

次世代に向けた良好な社会資本を形成するために、計画的保全により公共施設等の状態を安全で快適に保ちつつ、機能的・社会的な劣化の改善や環境にも配慮し、長寿命化を図る必要があります。

公共施設等の安全・安心・快適性、環境保全性の確保

《課題》

今後の財政状況を考えて場合、保有している公共施設を現状と同じ規模で更新することは困難になることが想定されます。

《方向性》

今後は財政負担の軽減が求められる中で、サービスの質をできるだけ落とさずに経費削減をしつつ、施設総量の見直しを図る必要があります。

行政需要の変化に見合う施設の供給のあり方、量の見直し

4. 公共施設マネジメントに関する基本的な考え方(本編 P.19～)

《ハコモノ》 建築系公共施設(学校、公民館、図書館など)

ハコモノは次の4つの最適化方針に基づいた取組を実施します。

1 維持管理の最適化～上手に使う～

公共施設の日常維持管理業務を効率的に実施することで、経費の圧縮を図ると共に、施設の状態を良好に保ち、利用者の快適性を高めます。

2 施設性能の最適化～長く大事に使う～

既に建築されている建築系公共施設については、中長期的視点から計画的な保全整備を行うことで、劣化の進行を遅らせ、長期に亘って安全に使用できるようにします。

3 施設機能の最適化～とことん使う～

有効活用されていない施設については、将来的な需要も視野に入れながら、用途変更や複合化など施設の再配置を進めます。

4 施設総量の最適化～身の丈に合わせる～

施設の性能・機能や将来的な需要などを踏まえて保有施設の適正量を見極め、余剰となる施設の再編・処分等を行うことにより総量の縮減を図ります。

《インフラ》 インフラ系公共施設(道路、橋りょう、上下水道など)

5 安全性を優先した計画的な維持管理

インフラ系公共施設については、総量の縮減や統廃合は困難なため、長寿命化や、維持管理経費の削減といったライフサイクルコスト削減のための方策を講じつつ、安全性を優先した計画的な維持管理を実施します。

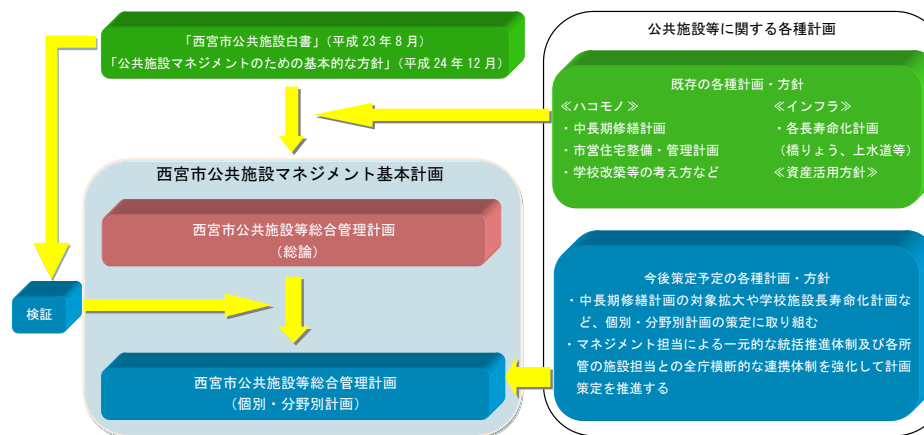


良好な社会資本を
次世代に引き継ぐために

《目標》

- ・維持管理経費を平成29年度までに10%以上削減します。(21年度比)
- ・標準化された仕様書、管理マニュアルに基づく管理体制を確立します。
- ・施設の長寿命化に向けた計画的保全の実施体制を確立します。
- ・機能再編を図ることにより、施設の利用満足度を高めます。
- ・施設総量(延床面積)を平成44年度までに10%以上縮減、74年度までに20%以上縮減します。(21年度比)
- ・インフラ系公共施設は、ライフサイクルコストを削減しつつ、安全性を優先した計画的な維持管理を実施します。

5. 更なる公共施設マネジメントの推進に向けて(本編 P.23)



今後、「総合管理計画」の総論に基づいて個別・分野別計画を策定し、それらを合わせて「西宮市公共施設マネジメント基本計画」として位置付け、マネジメントを推進していきます。合わせて、未利用地の利活用や、民間活力を取り入れた施設の有効活用手法等も検討していきます。

※施設類型ごとの管理に関する基本的な方針については、本編第3章(P.24～)をご参照ください。